

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 50	提案機関名 三浦とうがん会
要望問題名 トウガンの作型別施肥量について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 三浦市のトウガンは、三浦とうがん会の会員が栽培し三浦市JAが共販を行っている夏の重要な換金作物のひとつである。従来から大とうがんの他、独自品種のミニトウガンを栽培している。 三浦とうがん会は会員全員がエコファーマー認定を受けており、化学肥料由来窒素は神奈川県慣行栽培の3割減を目指しているが、近年は猛暑が続いており、日焼けの被害による減収を防ぐには葉を十分に生育させておく必要がある。また、近年は収穫期が6～7月の作型だけでなく、9月さらには10月まで収穫する作型もある。 そこで、三浦とうがん会の主力であるミニトウガンについて、養分吸収量を明らかにするとともに、作型別に十分な収量を期待できる適正施肥量を明らかにしてほしい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 三浦とうがん会の会員数は29名、栽培面積は約13ha。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	三浦半島地区事務所研究課、生産環境部土壌環境研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) I-1(2)新たな品目・品種の探索による特産品の開発 ク 三浦半島地域における新たな作目・品種の探索による特産品の開発 (コ) トウガンの安定栽培技術の確立		
対応の内容等	当所では過去にミニトウガンの栽培管理技術、品種特性および施肥量に関する試験を行っておりますが、養分吸収量に関する試験は行われていません。 今回要望のあったトウガンの適正施肥量の検討については、慣行の作型及び化成肥料の減肥等を考慮した試験区を設定し、試験を実施します。養分吸収量の測定については、土壌肥料研究課で測定を実施します。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			